



# 本郷台中だより

～学ぶ楽しさを知り、夢や希望を育む学校～

令和6年度第12号

令和7年1月14日

文京区立本郷台中学校

校長 江熊 秀昭

## 可能性を伸ばす

校長 江熊 秀昭

年初で今年の目標という話題が多いかと思います。さて、昨年の目標を達成できたでしょうか？満点という人は素晴らしいし、60～70点は付けられる人が多いかと思います。

目標を達成するためにはどうしたらいいのでしょうか？

時には厳しさも必要となります。

東北地方のある村に、「北の名人」と呼ばれる米づくりの名人がいました。どんな冷害の年でも、この名人の田んぼには稲穂が立派に実っています。干ばつで田んぼが干からびても、名人の稲はしなびれることなく、しゃんと立っています。大きな台風が来ても、名人の田んぼの稲は決して倒れません。

そうした強い稲をつくるまでには当然多くの苦労がありました。何度も何度も冷害や干ばつ、台風のためにせっかく育てた稲が全滅してしまっただけです。失意の中、名人が白神山地のブナの原生林を旅したときでした。ふっと、ブナの大木の幹に耳を当てると、



「ゴーゴー」と水を吸い上げる音が聞こえたそうです。その時、足下の至る所に張り巡らされているふと稲があることに気づきました。「アッ」と思ったそうです。表面ばかりに気を取られてはいけない。それから、稲の強い根を作る工夫がはじまりました。

名人の強い稲の秘密は、長く伸びた根っこにありました。夏を迎えたある時期、田んぼの稲は青々と瑞々しく見えます。しかし、名人の田んぼの稲だけは、黄色く枯れたように見栄えが悪いのです。わざと、与える肥料や水を極限まで減らしてしまうからです。このとき、稲は養分を求めてグングンと根を伸ばそうとするのです。地表の葉っぱは黄色くなってしなびているが、土の下では力強く根



っこが伸びている。そんな強くて長い根があるからこそ、冷害や台風の厳しい悪条件を無事に乗り越えていけるのです。

中学校時代は、社会に出て困らない下地作りをする時です。また、将来の自分を支える根をしっかりと伸ばす時期だと思います。外見を飾ることなく、素直に、誠実に、学習に向き

合うことで将来を支える根は確実に伸びていくと信じています。社会通念上で認められないことや他人に迷惑をかける行為に毅然とした指導をすることは、極限まで水を減らすことと同じです。やりたいこと、楽しいことを我慢し、真剣に学習に向かうことは、余分な栄養を与えないことと同じです。

進路決定、進級は目前です。特に3年生は重圧を感じている生徒も多くいます。今この時の厳しさの中でこそ可能性の根が伸びます。本郷台中生の素晴らしい人間性と可能性を信じてしっかりとその根を伸ばしていくことが大人の役割です。

目先に出来事に惑わされることなく、自分の目標に向けて邁進する一年となるように本郷台中学校として努力してまいります。

本年もよろしくお願いいたします。



#### 1月行事予定

1日	水	元日	
7日	火	冬季休業日終	
8日	水	始業式・専門委員会	
13日	月	成人の日	
14日	火	避難訓練	
15日	水	区中研(領域)・4時間授業	
16日	木	2年 TGG 英語体験学習	
17日	金	英語検定	
20日	月	生徒会朝礼・2年理科 R7年度全国学力学習状況調査の事前検証	
21日	火	区中研(教科)・4時間授業	
24日	金	1年校外学習(都内巡り)	
27日	月	学年朝礼	
31日	金	展示発表会準備	